

まつて以来このような事態になりました。新聞やテレビで、驚いた方も多いと思いますが、7日、8日の土日には花見も兼ね多くの来場者が順番待ちをする盛況となり、関心の高さがうかがえ「開放的に良い」という意見や「広さで活発かな」という利用者の声は続々と聞かれました。

このトイレは観光振興を目的に、養老溪駅前・里見・高滝・月崎に続く駅前公衆トイレとなります。飯給駅は観光写真の撮影ポイントに多くの来場者を集め、新刊小説本の表紙装飾たり、桜や菜の花の名所として知られるようになりました。

そこで平成26年3月、5月開催される市政50周年記念事業の芸術祭と連携したイベントなども



すわり心地はどうですか？

藤本壮介(ふしも そうけい)
建築家 昭和46年生まれ 東京大学工学部建築学科卒業
現在 藤本壮介建築事務所主宰 東京大学特任准教授 慶応義塾大学 東京理科大学非常任講師
建築物 情緒屋臨時短期治療施設 武蔵野美術大学図書館など
受賞 ニッポン新賞 日本建築大賞 台湾タワーン国際設計競技優勝賞(2011年)等多数

(大曽根・里山通信員)

春は加茂菜から

2月6日(日) 市原市南部の高滝地区で栽培されない「幻の野菜」・「加茂菜」の漬け物講習会が市原市の森で行われました。

市原市南部地区の活性化に取り組む「一九会」(北見朝弘会長)、「安田会」(鈴木四郎副会長)、「喜劇倶楽部」(松本正雄会長)の皆さん、千葉県倉庫務所、市原市農林業振興課、市原市JAの協力で市内外の主婦30人あまりが地元名人から指導を



脇目もふらず一生懸命

辰巳台から今年初めて天輪で参加された方は「漬物自体初めてで、こんなに手間ひまがかかると思わなかった。食べてみるのが楽しみです。」と手を動かしながら答えてくれました。講師の平田さんは「おいしい加茂菜を絶やしたくない。代々引き継いでほしい。」と意気込みを語ってくれました。

担当者は当日の刈り取り、仕分け、材料・道具の準備、試食のおにぎりの用意まで大変な手配だったと思います。北見さんによると加茂菜は肥料が多く必要で、種を厚まきにして茎が立ち競争して上に伸びるそうです。加茂菜の栽培は約100坪は行っており、イベントも大変だが仲間がいるのでやる、楽しく作業ができる仲間づくりが大切だ話してくれました。

(大曽根・里山通信員)

晴天の春らしい陽気になった4月5日、桜のつぼみが膨らんだ飯給駅で「世界大空トイレ」と名付けられた公衆トイレの完成記念式典が開催されました。駅前公衆トイレの完成式典とこの完成式典ですが、報道陣も、新聞各社をはじめ、テレビもNHK・日テレ・TBS・フジなど多数集り、大々的な事件事故でもないのに報道へまで飛びつきました。市原市始

裏に世界大空トイレ

考慮され、世界で活躍する建築家である藤本壮介氏に設計依頼。杉の丸太板に囲まれた約200平方メートルの敷地がガラス張りトイレを置くという奇抜なデザインとなりました。

「トイレってやっぱり大事なものだし、公衆トイレの設計は度ばやってみたかったです。お話を頂いてたどり着けたことです」と世界で活躍している建築家はにやかに話されました。デザイナーのアイチアは、昨年8月に現地を見て菜の花や桜がきれいな写真なども見せてもらいながら、豊かな自然と溶け込めるようなものを心掛けたそうです。「管理も地元の方がされるので、地域と共に育てるようなトイレにしたいですね」と最後まで気さくな藤本氏でもまた。

総事業費は約80万円。ダムの上流という事もあり、浄化槽が高かったとは発注した市役所担当部の話です。恥ずかしく使いたい女性にトイレも用意されていますし、それも抵抗があるという方は隣の多目的トイレをお使いください。

なお、このトイレは女性専用です。

受けました。北見会長のあいさつから始まり、加茂菜の由来を説明してくれたのは奈良輪さん。「大正時代に神社の下にあった坂本旅館に泊まった関西の客が厚情に感謝し種をくれた。川の水が上がった肥沃な土地でよく育ち、この地区に広まったそうです。今年は寒くてあんまり伸びない。こじやあんなやいやいやかと不動様にもお願いしたが、あじんとんじようがない」と今日の日を迎えました。「フチへっ、へ語い座」

講師は平田敏子さん、鈴木さん、戸澤さん、田邊さんの4名です。まずは、傷んだ葉を除き一束ずつ輪ゴムでとめてから、根を包丁で切り水洗いする。1束につき10gの塩をふり(根が多め、葉が少なめ)、洗濯板でもむ。樽に並べるとは15kg。(翌日味をみて天地替え) 要所ごとに手本を見ながら教えてくれました。

新井町会

第六回町会紹介

新井町会とは、加茂地区の北東端に位置している世帯数28戸の小さな集落です。南北に連なり約250m沿いに富原が流れていて、圏央道の田原インターチェンジより15分間の所に位置しています。

部落の中央に面した神社、第2次大戦後建てられて創立は750年、寛延元年(月)吉申期があり、毎年秋祭りには、子供相撲を奉納しています。昭和の中頃迄は、大人の相撲を奉納していました。戦時中は時期相撲を中止したこともありますが、徐々に相撲をやる人が少なくなり、一時奉納相撲中止したところ、富山地区で赤痢がはやり新井地区でも重症者がたつもあり、奉納相撲を復活した方がよいのではないかと、いつかになつて、翌年から時期大人が相撲をうつていました。その後、相撲をやる人足りない状況になつてきた為に子供相撲を始めることになり、現在も毎年欠かずに代々受け継がれてきた上儀で子供相撲を続けています。

神社の海は、本殿と社殿がある本格的な造りになっていてオリジナルの社殿は釘を使わない造りになっていない造りになっています。神社の由来は、南紀の神社から面守護の御札をもらって寺が神社を開いたと伝えられています。新井の西の山頂には近年、圏央道のインターチェンジの近くだといふこととN27ドコモの携帯の高いアンテナが設置されました。そのアンテナの近くの山に新井浄水場があつて高滝ダムより水を取水して市内の家庭に飲料水を供給しています。新井町会に安楽寺(創建は1366年(皇治元年南朝時代、寛永九年十月十八日で阿弥陀如来の本尊)といふ天目宗の寺があり、昔は大きな寺で大僧正がいて来っていた言われています。現在は墓場が現存するだけ寺の建物は存在しません。(創建日、大正五年七月、干日発行の市原郡誌に引用された) (石川雄輔里山通信員)



フィンランドからの理想の住まい、ホンカログホーム

モデルハウス公開中！

5月のお茶会は12(土)13:00~16:00
「初夏の簡単デザートを作ってみませんか？」
お子様連れ歓迎です。

地震に強く、省エネで 身体に優しい家を体感してください。

開館時間 10:00~17:00

HONKA

ホンカ房総 大隈工業株式会社 ログホーム事業部
TEL0436-95-5641 FAX0436-95-5642 http://www.honka-bousou.com

Today's homes. Naturally.

人と環境が一体となって大切な未来へ

自然環境と人間との調和を目指して

杉田建材株式会社

本社 市原市万田野26 TEL 0436(96)1311
市原支店 市原市惣社1-1-22 TEL 0436(24)0511
南総支店 市原市牛久450-1 TEL 0436(50)0111

URL http://www.sugita-group.com/

里山の生き物たち

イノシシに電気柵

加茂地区では猿やイノシシ、それ以外にもハクシリンも出没して、その数は人口を回るのではないかなという言われています。中には、狸交のメンバーが猿を撃つとして見方うた持むちに手を合わせさせたの、猿が家の中へ入ってきたりもして、飯をすていたの、肩こしはを何度もつけて聞かなくてはいいかな話もなつて、やかに流れてきます。いすれにしても五井地区などの都市部からすれば生き物たちの数は豊富で、エレクトロネットに欠きません。一時、イノシシに田んぼを荒らされて困った時期がありました。今は針金を張り巡らせた電気柵をもつて、被害を減らさせています。(2)重なる重なる張り巡らされた針金には高圧の電気が流れていますが、触れないように気を付ける必要がります。(3)この電気柵(通称デンサク)は田んぼだけではなく、里にも張り巡らされていたりします。又、コル場の多くも侵入を防ぐために外周に張り巡らせています。

キジが増えている

こんな加茂地区にキジが増えています。私のいる高滝でもあちこちからあめ狸狩で大きな啼き声が聞かれます。鹿のあめ狸狩はキジの雄を見かけたこともありますが、そのキジが玄關のガラスの前に来て七色に輝く尾羽をひいてみせたことが2回程あります。その時は勝手にいいこの起る前触れだと思つてしまっています。(信られなにかもしませんが、20年近く前はキジではなくクジャクの雄が庭に降り立たことがありました。初め山側の上の方で羽をひいていたクジャクがだんだん降

里山からの発信

スズメは減ったのか

この他もいろいろいるはずですが、実はこのあたりの動物は定期的に調査されています。高滝地区を貫通する国道の両側、山を切り開き道を造ることで環境への影響を与えるのかといふことを調べると、スズメが、生き物たちの個体数の変化には道路工事だけではなく、他にもいろいろの要素が絡んで影響を与えていることがわかった。地元にいるものとして実感するのは、先述したキジが増えたこと、その他、雀の啼き声もあちこちで聞かなくなりました。今はまだ、雀の啼き声が毎日のようにいい声で聞かせることができるのが、雀のチンチンという啼き声がほとんど聞かなくなりました。年間を通じて聞き取ることができなくなっています。(2)数年たつても聞き取ることができなくなっています。

そして一年が経ち タケノコプロジェクト

新居の編後で、「福島にタケノコ」といふプロジェクトについて少し触れましたが、この加茂里山通信も加茂地区の人たちに呼びかけようとしていました。その矢先、市原市と木更津市のタケノコから放射能シウムが検出されたという報道もテレビで報道されてまいりました。政府が出荷停止を指示した品目が多いのが椎茸とタケノコですが、タケノコは千葉県で1市1町なのに対し、福島県では1市でした。これではまるく逆で、もちろんタケノコプロジェクトは中止になりました。予想はしていたものの、この地が放

わかってきたこと

あれから1年が経ち、わかってきたことがあります。日本の原発がすべて停まる寸前といふ今、原発をすべて止めてしまつたら電気は足りなくなり供給できなくなる、と電力会社と政府がずっと言い続けていたことを思い出してほしいと思います。水力と火力の発電総量と夏のピーク時の使用電力総量との比較で、それでも余裕があると指摘されていたことが止まったことがわかってしまつたことです。つまり、原発はなくても電力の供給が可能であるといふ事実がわかったことです。また、福島第一原発の事故はすべて津波によるものと当初知られていましたが、その後地震の揺れで配管の損傷が起つていたことがわかりました。この時の第一原発の揺れは500ガル程度でした。2003年の宮城県北部地震、2004年の新潟中越地震、2007年の新潟中越沖地震は2000ガルを超えています。しかも福島の原発は断層性の地震を受けていたことからすると、日本列島が地震の活動期に入つていて、このことを多くの学者が指摘している。津波がなくともこの原子炉でも事故が起つという可能性がわかってしまつたのです。原発を止める、または廃炉にするという話があるが地元における経済的な打撃を理由に反対の声がすぐによがりますが、いったん事故が起つてしまつたら経済的打撃どころか生活そのものがなくなつてしまつたことを見てきたはずですが、そもそもあつた津波を沸かして羽根車を動かすのに火を使つたのが、原子炉の断層を使うのかといふ選択に、広範囲の地域を汚染し人体に多大な影響を与える可能性のあるものを選ぶ理由がどこにあるのかと思います。

同じことがもう絶対にあつてはならない。そのこのために、時間の経過とともに忘れていつてはならないことがいくつもあつたと思います。

(征矢里山通信員)

里山の保存食 味噌作り

3月25・26日に行われた味噌作りの様子です。4軒分の量を自作で行いました。

準備は早くから始められました。材料である大豆は加茂地区産です。麹屋さんに米を持参して麹を頼み、3、4日かかる。塩を用意する。庭に中・小のかまどを仕立てて、薪の準備、道具を揃える(煮豆の鍋、トールの木桶、斗柄、バケツ、ブルーシート、柄杓、豆をつぶす機械、麹が出来てくるのを待つて豆を煮始めます。

まずは豆の計量。バケツで小分けして豆をよく洗ひ、3つの釜に分けていきます。水を入れて半日おきます。(豆に水を吸わせる) かまどに火入れ、煮始めます。量が多いので煮立てるまでには1日がかりですが、指でつまんでつぶれるくらいにまで煮て約半日煮ます。こまま、晩煮します。次の日には一度火をいれて豆を温めます。温かい豆を臼で潰す機械にかけてつぶします。いよいよ大きな木桶の中で麹と塩を混ぜたものと大豆を混ぜておきます。大きなしやちも使いますが、お豆を潰す方も木桶で潰す。あとはそれぞれに用意した容器に詰めていき、終了になります。

豆を煮上げて残った汁を「トウ」いと言います。とろみのある褐色の汁で、塩辛のりを加えて飯にかけて食べます。

(大曽根・里山通信員)



まさに大豆と格闘中!

里山の唄

上総焼煮音頭を調べるにつれ、いろいろな情報が入るようになりました。今回、歌詞及び楽譜の載つたCDが手に入りしました。これは市原市教育委員会、市原市民謡舞フェスティバル実行委員会が発刊したものです。平成5年に制作されたこの冊子は「心に響く里山の唄」のタイトルのもと、伝承民謡が音頭まで幅広く地域で語り継がれ、唄い継がれてきたものがぎっしりと詰まっています。

上総焼煮音頭その中にあつた「はーあー私じゃ上総の炭焼音頭」と始まり、高滝神社の喧嘩神輿やどぶくち出てきたりもして6章からなります。1丁丁、盤はあつたりもなっています。片面3章つづけてあるものを1本のテープにした場合3章と4章の間の間奏が他の間奏の倍になつていて、踊り手に居残りが生じます。ここは修正して踊っているところですが難しそうです。

この他、市原市内各地の民謡、音頭が自押しで北は崎山(八幡)から、みやぎ(米沢)、ひつひつ(養老)と、百曲以上の民謡や音頭が掲載されています。曲及び楽譜については確認するところでしたが、次は踊る型をどこまで復元し、記録を残すことができれば、市原市民謡舞フェスティバル実行委員会が平成10年に助成金が打ち切られています。この状況では、心響くふるさとの唄は消えてしまつてもいいかもしれません。しかし、各地域が結束して、地元を存する唄を唄り起して唄い継いでいくことが、地域の唄として残すことは可能かもしれません。

(矢代里山通信員)

